



第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会

子ども・若者参画特別委員会
(ジュニア・ユースチーム)

第5期生
活動報告書

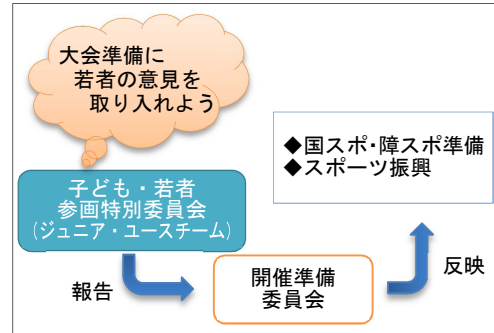
(活動期間:平成30年8月26日～平成31年3月17日)



はじめに(ジュニア・ユースチームについて)

◎設置の趣旨

2024年に第79回国民スポーツ大会(国スポ)および第24回全国障害者スポーツ大会(障スポ)を本県で開催するにあたり、子どもや若者の視点や発想を両大会の開催準備や県のスポーツ推進に反映させることを目的に、開催準備委員会のもとに「子ども・若者参画特別委員会(通称：ジュニア・ユースチーム)」を設置しました。この活動は国スポ・障スポを準備する他県にはない滋賀オリジナルの取組です。



滋賀オリジナルの取組

◎活動内容

国スポ・障スポの開催準備やスポーツ推進などの中からテーマを設定し、必要な調査・体験活動を行って、意見をまとめ、開催準備委員会に報告します。

今期は、『スポーツの魅力発見!!』をテーマに、2024年に国スポ・障スポの開催を控える中、競技人口の少ない競技や、知名度の低い競技にスポットをあて、その競技の魅力や、普及策を競技関係者からのインタビュー調査を参考にしながら、検討することとしました。

主な内容としては、昨年開催された、福井しあわせ元気国体の競技会場に赴き、実際の競技観戦を行うなど、国体の雰囲気を実体験しました。さらには、ホッケー・アーチェリー・フェンシングの競技体験や関係者への取材活動を行いました。取材活動を行うにあたっては、有識者のご指導のもと、メンバー自身で取材項目を検討し取材活動に取り組みました。これらの体験をもとに、競技の魅力や、競技人口を増やすための方策についてメンバーで検討し、まとめました。

◎委員の募集

県内に居住、通学・通勤する小学5年生から大学生世代の子ども・若者を募集し、今年度は小学5年生から大学4年生までの32名が活動しました。(p. 17の第5期生メンバー参照)

	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男子	6人	3人	2人	3人	14人
女子	9人	5人	2人	2人	18人
計	15人	8人	4人	5人	32人



第1回 結団式・仲間づくり活動・講話 (平成30年8月26日)

会場：びわこ成蹊スポーツ大学(大津市)

◎結団式

結団式では、国体・全国障害者スポーツ大会準備室中嶋室長から「各競技の体験や取材活動をとおして、みなさんの感じたことや考えたことをしっかりまとめてください。」と激励があり、その後「子ども・若者参画特別委員会委員」の委嘱状が授与されました。



結団式 委嘱状の授与

◎仲間づくり活動

結団式の後には、交流を深めるための仲間づくり活動を行いました。これは1人では解決できない課題を、お互いが支え合ったり、アイデアを出し合ったりしながら協力して克服する活動で、「絶対無理!」と思われた課題も、みんなが協力してクリアし、楽しく活動できました。



仲間づくり活動

◎国スポ・障スポ、ジュニア・ユースチームの概要説明

仲間づくり活動の後には、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の概要、ジュニア・ユースチームの概要説明がありました。国スポ・障スポに関する理解を深め、さらには、活動テーマである「スポーツの魅力発見!!」のもと、メンバー自身がやるべきことについて確認を行いました。

第2回 インタビューに関する講話および質問事項の検討 (平成30年9月15日)

会場：びわ湖放送株式会社(大津市)

◎インタビューに関する講話

びわ湖放送株式会社山口秀富美さんより、放送局の成り立ちや、その役割について説明がありました。

その後、場所をスタジオに移して、アナウンス担当の松永五九雄さんから、

「インタビューって何だ」と題して、インタビューに関する講話をいただきました。

松永さんからは、インタビューは「相手のことをしっかり考え、相手を輝かせることを第一に考えて行うこと」や、「基本的な事でも、知ったかぶりをせずどんどん聴くこと」、「質問の順番も流れを考えて行うこと」、「答えが、はい、いいえで終わらない質問をすること」、「楽しい事だけでなく、苦しい事やつらい事なども聴くこと」といっ



山口さんによる講話



松永さんによる講話

たものであることを教えていただきました。さらに、実際にインタビューを行う時の心得についても教えていただき、4回目以降の活動に大変参考になる活動となりました。また、講義の後にはスタジオセット裏側や、音声や映像を調整・編集する様子を見学したりするなど、貴重な体験もさせていただきました。

★インタビューの心得★

- ①元気なあいさつで、自己紹介！
- ②ハキハキと相手に届く声で！
- ③質問は短く、簡潔に！
- ④話を聴く、メモをとる時は相手の顔を見て！

◎グループワーク（質問事項の検討）

午後からは、午前の松永さんの講義内容をふまえて、第4回活動以降の「競技体験および取材活動」に向けて、実際に競技関係者の方にどのような質問をするのか？について考えました。まずは、メンバー一人ひとりで考えました。

その後の、グループワークでは、一人ひとりが積極的に発言し、活発な意見交換が行われました。メンバーそれぞれの発言をもとに、①きっかけ、②競技の魅力、③競技に対する思い、④競技の普及、⑤国スポ・障スポに対する思い、⑥その他の項目に質問事項を整理したところ、100以上の質問項目となりました。



グループワークの様子

第3回 「福井しあわせ元気国体」での現地視察（平成30年10月6日）

会場：福井市スポーツ公園(福井県)
福井県立ホッケー場(福井県)

◎「福井しあわせ元気国体」アーチェリー競技視察

午前中は、福井市スポーツ公園で開催されていた、アーチェリー競技の視察を行いました。アーチェリー競技は、男女とも70m先にある的に、36射×2回の計72射を射って順位を競います。ちなみに、的の最中心部は約12cmで、DVDと同じ大きさだそうです。



試合の様子

広い芝生の試合場に、的が39個設置されており、各都道府県代表選手それぞれ3名が一つの的に向かって、一斉に矢を射っていました。的までの距離が70m先ということもあり、矢が的のどこを射ったかまでは、目視では確認できませんでしたが、会場に大型ビジョンが設置されており、的の映像が大きく映し出されていて、観戦者にもわかるように工夫がされていました。選手の矢を射るまでの集中した様子や、緊張感などを間近で感じとることができました。

また、アーチェリー競技の観戦のマナーとして、「競技中は鳴り物等の応援は控える。」「矢取りの間は、盛大な応援で選手を盛り上げる。」「競技中のフラッシュ撮影は禁止」といった項目がありました。どれも、アーチェリー競技の特性から、選手が試合に集中できるようにするために必要な項目なんだと、実際の大会を視察することによって、理解できました。

◎「福井しあわせ元気国体」ホッケー競技視察

午後は、福井県立ホッケー場へ移動し、「ホッケー競技」の視察を行いました。ホッケー競技は、L字型のスティックの片面のみを使ってドリブルやパスを行い得点を競う、いわばスティックで行うサッカーのような競技です。競技会場は熱気にあふれていました。

成年男子の準決勝、滋賀県 VS 福井県の試合を観戦しました。選手一人ひとりの技術の高さはもちろん、スティックをまるで自分の手のように扱う姿に感動しました。また、アーチェリー競技とは応援もずいぶん違っていました。太鼓を使っただけの大きな声援は、選手にとっても観戦者にとっても心を熱くさせてくれるものでした。競技によって応援のマナーや仕方もうずいぶん違うことがわかりました。また、開催県の福井県との対戦だけあって、会場は超満員でした。惜しくも敗れてしまいましたが、ホッケーの醍醐味を感じることができました。

さらには、会場の外での『おもてなし広場』も大変にぎわっており、無料で越前町名物の塩まんじゅうや正元汁などのふるまいもあり、まさに地域あげての国体を感じることができました。また、私たちが実際に体験する競技である「ホッケー」と「アーチェリー」について、試合の様子を観戦することができ、今後の活動が楽しみになりました。



試合の様子



おもてなし広場の様子

第4回 ホッケーの競技体験および関係者への取材（平成30年10月27日）

会場：滋賀県立伊吹運動場(米原市)

◎ホッケーの競技体験

午前には、ホッケーの競技体験を行いました。滋賀県ホッケー協会から7名の方を講師に迎え、まず、スティックの持ち方やボールの扱い方についてご指導いただきました。「L字型のスティックの片面のみでしかボールに触ることができないので、スティックさばきがとても大切だ」とおっしゃっておられました。

その後、コート内の短辺やカラーコーンを利用してのドリブルや、シュート練習などに取り組みました。メンバーの中には、スピードに乗ってボールを上手に扱うメンバーもいました。リフティングも指導いただきましたが、なかなかハードルが高い技術でした。

さらには体験のまとめとして、ミニゲームを行いました。短い時間でしたが、みんな熱心に取り組み、ホッケーの魅力について体感できる貴重な体験となりました。



競技体験の様子



ミニゲームの様子

◎ホッケー競技関係者への取材

午後からは、取材活動を行う前に、講師の方から「ホッケーは世界的に見ると、サッカー、クリケットに次ぐファンの多い人気競技であり、ホッケーファン人口は約 20 億人いること」や「さくらジャパン、ホッケー女子日本代表の動画をもとにルール説明」をしていただきました。また、「43 年前にこの地で国体のホッケー競技が開催されたこと」、「ホッケー競技を通して、人や地域のつながりができ、現在もこの地にホッケーが根付いていること」などを教えていただきました。

その後、4つのグループに分かれて取材活動を行いました。主な取材内容として、①きっかけ、②競技の魅力、③競技に対する思い、④競技の普及、⑤国スポ・障スポに対する思いに関することをそれぞれ聴き取りました。講師のみなさんは、メンバーからの数多くの質問の一つひとつ丁寧に答えてくださいました。



ホッケー競技についての説明



取材活動の様子

第 5 回 アーチェリーの競技体験および関係者への取材（平成 30 年 11 月 10 日）

会場：滋賀県立大津商業高等学校（大津市）

◎アーチェリーの競技体験

午前には、アーチェリーの競技体験を行いました。滋賀県アーチェリー協会から 6 名の方を講師に迎えて行いました。まず始めに、「アーチェリーは、競技性からも非常に危険であり、指示・ルールをしっかりと守ること」「矢は射る時も危険だが、矢を抜く時にも周りをしっかりと見ておくこと」といった安全面についての説明を受けました。その後、①高校生の近射練習の見学・説明、②日本中学生女子チャンピオンの練習見学・説明、③実射体験をそれぞれグループごとに行いました。中学生の練習見学・説明では、実際に 70m 先にある的を射っている様子を見学しましたが、いとも簡単に的に当てている様子に驚きました。日本チャンピオンのすごさを実感しました。実射体験では、指示やルールをしっかりと守って、非常に集中して取り組んでいるみんなの姿が印象的でした。中には、グルーピングといって同じ場所に何本も矢を射るメンバーもいて、講師の先生方も驚いておられました。



安全面についての指導



実射体験

◎アーチェリーの競技関係者への取材

午後は、「関係者への取材活動」を行う前に、講師の方から、「アーチェリーは、ヨーロッパの戦時中、負傷して歩けなくなった人へのリハビリの一環としてとり入れられていたが、健常者にとっても魅力的な競技であったため広まっていったこと」や「日本にアー

チェリーを普及したのは、滋賀県出身の方であること」、「近畿は競技レベルが高く、オリンピックが多数出ていること」など多くのことを教えていただきました。

その後、4つのグループに分かれて取材活動を行いました。主な取材内容としてはホッケーと同様に、①きっかけ、②競技の魅力、③競技に対する思い、④競技の普及、⑤国スポ・障スポに対する思いに関することをそれぞれ聴き取りました。講師のみなさんは、メンバーからの数多くの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださいました。どのグループも和やかな雰囲気取材活動に取り組んでいました。



アーチェリー競技についての説明



取材活動の様子

第6回 フェンシングの競技体験および関係者への取材（平成30年11月23日）

会場：滋賀県立石山高等学校（大津市）

◎フェンシングの競技体験

午前のフェンシングの競技体験では、滋賀県フェンシング協会から6名の方を講師に迎え行いました。始めに、フェンシング競技について、『フェンシングは、中世ヨーロッパを起源とする剣技で、上半身の胴体のみ有効面を突いて争う「フルーレ」、全身が有効面の「エペ」、頭・腕を含む上半身の有効面を突いたり、切ったりして争う「サーブル」の3種目があること』、『フェンシングでは、「マルシェ」、一歩前へ、「ロンペ」、一歩後ろへ、・アン・ドゥ・トロワ等のフランス語を使用していること』、『滋賀県出身で、現日本フェンシング協会会長の太田雄貴選手が、オリンピックや世界選手権でメダルを獲得したことにより、日本でもフェンシングの知名度が上がったこと』等を教えていただきました。また、講師の先生方による、模範試合もみせていただき、実際の試合は、スピーディーな剣さばきの試合展開でメンバー全員、驚いていました。

体験では、フットワークや構えについてご指導いただいた後、一人ひとりが剣を持ってフットワークを行い、最後はマスクをつけ、講師の先生を相手に、実際に突く体験をさせていただきました。講師の先生方から丁寧にご指導いただき、メンバーも意欲的・積極的に活動に取り組みました。



フェンシング競技についての説明



模範試合の様子



競技体験の様子

◎フェンシングの競技関係者への取材

午後は、「関係者への取材活動」を行いました。ホッケー・アーチェリーと同様にインタビューを行いました。取材活動も3回目となり、メンバーもスムーズに質問・記録ができるようになりました。講師のみなさんは、メンバーからの数多くの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださいました。どのグループも和やかな雰囲気の中で熱心に取材活動に取り組んでいました。



取材活動の様子

第7回 活動のまとめ・競技普及策の検討（平成31年1月20日）

会場：滋賀県庁(大津市)

◎グループワーク1

ホッケー・アーチェリー・フェンシングのそれぞれのチームに分かれて、体験活動や取材活動の結果を、①競技を始めたきっかけ、②競技に関わっておられる方の思い、③初めてその競技をした時の気持ち、④競技の魅力、⑤競技人口が少ない原因、⑥競技の普及のために実践していることについてメンバーの感想や、分析を交えてまとめました。



グループワーク1の様子

◎グループワーク2

「競技の普及策についての検討」を行いました。『競技を普及させるために、どのような手立てがあるか』について、目標達成シート（マンダラチャート）を活用して考えをまとめました。まずは、メンバー個人でシートに記入した後、4つのグループに分かれて活動しました。グループ内では、メンバー一人一人が自身の考えを積極的に発言し、グループでまとめたキーワードをメンバー全員で共有しました。さらに、各グループの重複しているキーワードから、メンバーで提案する競技普及策を『体験会』、『魅力発信』、『全ての人ができると思う、環境づくり』、『選手・指導者の育成』の4つに絞りました。



グループワーク2の様子

◎グループワーク3

「競技普及策の提言のまとめ」を行いました。『体験会』、『魅力発信』、『全ての人ができると思う、環境づくり』、『選手・指導者の育成』の4つの普及策についてそれぞれ、どこで、だれが、どのようにして行うか、必要な物や事は何か、どのような課題が考えられるのか等の観点について、より具体的にそれぞれのグループで検討し、メンバー全員の考えとしてまとめました。

第8回 活動報告会に向けての準備

(平成31年2月17日)

会場：滋賀県庁(大津市)

◎活動のまとめ

これまでの活動の振り返りを、メンバー一人ひとりが行いました。そして、最後の活動報告会・解団式に向けての原稿確認を行いました。

第9回 活動報告会・解団式

(平成31年3月17日)

会場：コラボしが21(大津市)

◎活動報告会

これまでの活動の報告についてはもちろん、メンバーで検討した「競技の魅力」や「競技普及策」についての提言も行いました。会場には、金山理事をはじめ、お世話になった方々など約50名の皆さんにお越しいただきました。



活動報告会の様子

<メンバーからの提言>

★競技の魅力★

～ホッケー編～



「競技を始めたきっかけ」については、学校の先生や友達からの誘いやびわこ国体の開催などがきっかけとなり、小学校や中学校から始めておられました。

「競技に関わっておられる方の思い」については、2024年滋賀県開催の国スポで優勝など、ホッケー競技をとおして滋賀県を盛り上げていきたいといった思いがありました。

「初めてその競技をした時の気持ち」については、遊びの一環として取り組んでいたや、初めは難しく不安だったが徐々にのめり込み楽しくなっていかれたそうです。私達メンバーは、初めてホッケーを体験しましたが、スティック操作に悪戦苦闘し難しく感じたという感想が多くありました。

「ホッケー競技の魅力」についてですが、競技を体験したメンバーは、スティック一つで相手を抜いたり、ドリブルやシュートなど様々なことができることや、個人ではなくチーム内での協力が必



要で一体感が生まれる、ゲーム展開がスピーディーで観戦に来られた方も楽しく感じる
ことができるといったところなどに魅力を感じました。



「**競技人口が少ない原因**」については、県内のどこでホッケーが行われているのか知らないこと、学校の授業で実施されていないことから、認知度や知名度が低いこと、また競技の特性から難しそうである、体力が必要そうといった少しハードルが高そうなイメージがあるのではないかと分析しました。

「**競技の普及のために**」競技関係者の皆さんは、体験会の実施や、継続してジュニア世代の指導にあたりといったことを実践しておられるそうです。

～アーチェリー編～



「**競技を始めたきっかけ**」については、学校の部活紹介でアーチェリーの存在を知り、先生や友人の誘いがきっかけで、高校や大学入学後に競技を始められていました。

「**競技に関わっておられる方の思い**」については、活躍できる選手の育成や、アーチェリーを始められるきっかけや、環境を作っていききたいという思いをもっておられました。



「**初めてその競技をした時の気持ち**」については、この競技はやれると自信を感じた方や、最初は試合に出場することができず面白くなかったと感じた方もおられました。私達メンバーは、アーチェリー競技を初めて体験して、難しかったけど、的に当たると楽しいや、矢を放つのに当たる爽快感が良いなどという感想をもちました。

「**アーチェリー競技の魅力**」についてですが、競技を体験したメンバーは、まず健常者も障害のある方も同じ立場で競うことができることや、的に当たれば得点というルールがととてもわかりやすく競技を始めやすいことや、競技を通して自分の集中力が高まることなどに魅力を感じました。

「**競技人口が少ない原因**」については、中学や高校で部を設置している学校数が少なく、競技できる環境が整っていないことや、競技に係る費用が高額であること、またアーチェリー競技の認知度が低いことなどがあるのではないかと分析しました。

「**競技の普及のために**」競技関係者の皆さんは、勧誘を目的とした体験会の実施や、競技できる環境の増設に尽力されておられました。



～フェンシング編～



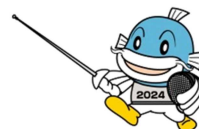
「**競技を始めたきっかけ**」については、高校時代に顧問の先生からの誘いや、フェンシングに興味をもって高校入学時から競技を始められていました。

「**競技に関わっておられる方の思い**」については、2024年滋賀県開催の国スポまでに選手を増やし、また活躍できる選手を育成したい

や2020年の東京オリンピックでメダルが取れる競技なので是非注目してほしいなどの思いをもっておられました。

「初めてその競技をした時の気持ち」については、最初は不安やしんどさを感じたが徐々に楽しくなっていたや、全国大会出場が一番近い競技でありワクワクしていたとおっしゃっておられました。私達メンバーは、フェンシング競技を初めて体験して、個人競技なので初心者の方でもやりやすく感じたや基礎練習が慣れない動きのためしんどかったや競技用語がフランス語のため難しく感じたといった感想をもちました。

「フェンシング競技の魅力」についてですが、競技を体験したメンバーは、車いすの方も競技ができることや、個人競技のため自分の努力次第で上達可能など、スピーディーな試合展開で見ている人もワクワク感やドキドキ感を味わえるところなどに魅力を感じました。



「競技人口が少ない原因」については、ホッケー・アーチェリー同様に中学や高校で部を設置している学校数が少なく、またフェンシングに関する情報量が少ないことなどが認知度の低さにつながっているのではないかと分析しました。

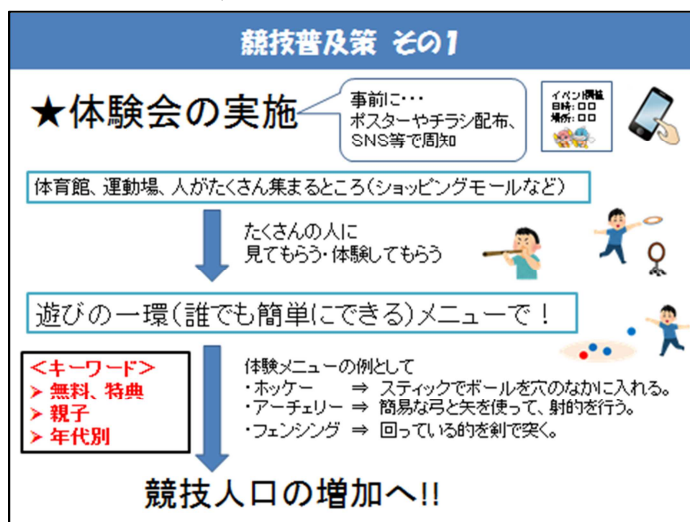


「競技の普及のために」競技関係者の皆さんが実践しておられることは、フェンシングを楽しいと感じてもらえるように工夫しながら体験会を実施している、身近な人へのPRなどに尽力されておられるとのことでした。

★競技普及策の提言★

私達は、3つの競技を体験してきましたが、どの競技もとても楽しく、もっともっとみなさんに広めたいという思いから、競技普及策について検討しましたので、その意見を発表します。

まず一つ目が、体験会の実施です。私たちは、ホッケー・アーチェリー・フェンシング



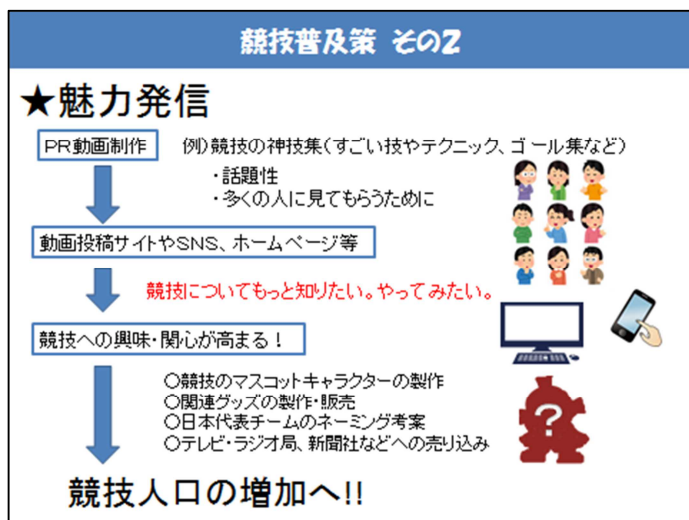
の競技体験を行い、初めて、その競技の魅力について知ることができました。やはり何事もまずはやってみることが大切だと考えます。そこで私たちが考えたことは、実際に競技をしている体育館や、運動場で行う体験会のほかに、ショッピングモールや夏祭りの会場などの人がたくさん集まっているところに出向き競技体験会を行ってはどうかと考えました。人がたくさんいればいるほど、人々の関心

や興味をひけるのではないかと思います。

さらに、体験会での実施内容としては、正規の道具やルールにこだわらず、遊び感覚からスタートできるメニューにしてはどうかと考えます。遊びの一環から始めることにより、誰もが気軽に参加しやすくなり、何よりも楽しいと感じていただけるのではないのでしょうか？

そして、体験会の実施をどのように周知していくかについては、ポスターやチラシを制作し様々な機関に掲示配付したり、SNSを使って情報を提供したりなど多くの人に見てもらえる工夫をすることが必要だと考えます。また、参加費は無料として、親子で参加するとお菓子や景品がもらえるなどの特典をつけることで、競技を始める時に欠かせない保護者の理解が得られるとともに、参加者の確保につながっていくと思います。また、年代別に体験会を実施することで、各年代に応じた体験内容やレベルが設定でき、参加者の興味づけに効果があるのではないかと考えます。体験会は1度だけでなく、何か月に1度の割合で定期的に行い、体験回数に応じた体験内容のランクアップなど工夫することで、さらに効果はあがっていくと考えます。

二つ目は、**魅力発信**です。私たちは、体験してもらうことと同時に、その競技について



知ってもらうことも必要だと考えます。競技の魅力を知ってもらうためには、どうしたらよいかについて検討しました。まず考えたのは、PR動画の制作です。たくさんの人に見てもらえるよう、見ている人が、「すごい」「カッコいい」などと感じてもらえる内容の神技集のような動画を作ってはどうかと考えます。また、ゆるキャラがその競技を体験している動画なども面白いと思います。インパクトのある動画は、動画投稿サイト

やホームページ上にアップすれば、動画の再生回数も増え、当然話題性の向上にもつながっていくと考えます。

また、動画だけでなく、競技のマスコットキャラクターを作ったり、関連グッズを制作すること、さらには、「サムライジャパン」や「なでしこジャパン」、ホッケーの「さくらジャパン」のように日本代表チームに独自の呼び名をつけて、周知していくことなども魅力発信という点では効果があると思います。

また、テレビやラジオ、新聞などのマスメディアにその競技の魅力を売り込んでいき、取り上げてもらうことも必要だと思います。そのためには、世界的に活躍する選手などが輩出されることも大きな要因となるのではないかと考えます。

三つ目は、**環境づくり**です。ここでは、全ての人がやってみようと思えるような環境を作っていくことを前提として考えました。その中で、私たちは、競技を行うために必要な環境として、『道具』、『場所』、『学校』をキーワードに考えました。

競技普及策 その3-1

★環境づくり(全ての人々が競技をやりたい)

競技道具やユニフォームの開発

- ・利便性やデザイン性を重視
例)ユニバーサルデザイン、色や模様を工夫、よい香りつきの素材

用具がさらに高額？

用具使用の際の低コスト化
例)レンタルサービスなど

だれもがやってみたい、見てみたい

競技人口の増加へ!!



デザインや、カラー・模様等パッと目をひきやすい道具やユニフォームを作ります。また、スポーツをする際には、汗をかきますので、道具や身に付けている服から常によい香りが出るようなものを作ることも有効ではないかと考えました。しかし、デザイン料などが加算され用具がさらに高額になることも予想されますので、私たちは、用具のレンタルサービスを行うなどして、競技者の負担を少しでも軽減できる工夫が必要だと考えました。そうすることによって、誰もがやってみたい、また見てみたいといった競技への関心が高まり、最終的に競技人口の増加につながると考えます。

競技普及策 その3-2

★環境づくり(全ての人々が競技をやりたい)

場所

- ・●●のついでにできる
例)ショッピングモール、遊園地、娯楽施設等

気軽にスポーツに触れる機会を作る。



面白い、楽しい

競技人口の増加へ!!

でしょうか。ついでにやることによって、気楽に気軽にでき、さらには、競技参加へのきっかけ作りにもなるのではないかと思います。ただ、競技を行っている時の安全面の配慮や、協力してくださる施設を探す必要があるなど課題はあると思いますが、多くの人に見て感じてもらうことによって、最終的に競技人口の増加につながっていくのではないかと考えます。

そして、最後は学校です。競技人口の多いスポーツは、どこでもできます。しかし、競技人口の少ないスポーツは都市部から離れた郊外で行われていることが多いという考えにたどり着きました。このような現状を解消するためには、やはり学校という場所が大切ではないでしょうか？そこで、私たちが考えたことは、学校には、多くの児童・生徒・学生

まずは、道具についてです。競技を行うためにはまず用具や、競技服(ユニフォーム)が必要となります。競技によっては、道具が高額であったり、ビジュアル的に目立たない競技服で行うものもあるのではないのでしょうか？そこで、デザイナーさんや、選手のみなさんから意見を聴き、利便性やデザイン性を重視した道具を制作してはどうかと考えます。誰もが使えるという観点から、ユニバーサル

次に、場所についてです。私たちが考えたのは、何かのついでに気軽にできるような場所で競技ができるという事です。例えば、ショッピングモールに買物に出かけたついでに、そこで競技にふれる事ができたり、バッティングセンターに行った時に、1レーンがアーチェリー場になっていたり、遊園地などでフェンシングができれば、楽しく、面白いと感じてもらえるのではないで

競技普及策 その3-3

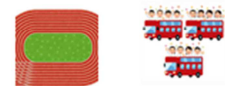
★環境づくり(全ての人が競技をやってみたい)

学校

- ・教育関係者や学生に向けて
例)小学生:スポーツ少年団のチーム発足
中学・高校:部活動や地域のクラブチーム
大学:クラブやサークル



学区ごとにチームを作る
寮などの環境整備



競技人口の増加へ!!

ことが不可能な場合については、学区ごとに実施してみることも効果的ではないかと考えます。さらには、寮などを整備して送迎の負担軽減や移動時間の短縮など、みんなが練習に参加しやすい環境を作ることも必要だと思えます。実施にあたっては、指導者の不足や、費用面、実績がないことから人が集まるかといったことが懸念されますが、たくさんの人に知ってもらい、体験してもらうことによって最終的には、競技人口の増加につながる手段の一つだと考えます。

四つ目は、選手・指導者の育成です。私たちは、体験会や魅力発信、環境づくりをと

競技普及策 その4

★選手・指導者の育成

- ・継続して競技に取り組んでもらうために・・・
例)競技経験者・プロ選手の協力

○選手の育成

- ・体験会などで人材の発掘
- ・プログラムの工夫



- ・スキル取得に係る認定制度



○指導者の育成

- ・指導者が指導者から学ぶ(コーチング)



- ・ジュニア世代の指導
高校生、大学生が小・中学生を指導

相乗効果



競技人口の増加へ!!

が存在していることから、できるだけたくさんの人に競技を知ってもらうこと、体験してもらうことが可能ではないかということです。例えば、小学校において、競技のスポーツ少年団が設立されれば、早い段階から競技に関わることができますし、中学校や高等学校において、部が設置されることによっても競技を始めるきっかけを作ることにつながっていくと思います。また、1つの学校でこれらの

して、競技をやってみたいと感じたり、実際に体験した方々をどうすれば競技を継続して続けてもらえるのかという観点から検討していきました。そのためには、競技経験者や、プロとして活躍していた方の協力が必要不可欠だと考えます。やはり、初心者の方から教えていただくのと、経験のある方から教えていただくのでは、受け手の感じ方も全く違うと思います。実際に私たちも、初め

て競技体験をした時にそのように感じました。では、競技経験者をどのように増やしていくのかについてですが、体験会や練習会を定期的で開催し、毎回のプログラム内容を工夫することが大切だと思います。つまり、一度体験会に参加いただいた人を逃がさない工夫が必要です。そのために、競技のスキルにあわせて級や資格等を認定する制度をつくってはどうかと考えます。目標があれば、誰でも継続して続けやすくなると思います。また、指導者の育成については、若い指導者が、自身が教えてもらった指導者の方から、指導について聴くことや、競技経験のある高校生や大学生が、小・中学生を指導するなどの機会をつくることも重要だと考えます。ジュニア世代にとっては、自分たちと年齢の近い人から教えてもらうことによって、楽しく競技に取り組むことができますし、指導する側にな

る高校生や大学生にとっても、自身の競技能力の向上につながり、お互いの相乗効果生まれ、最終的に競技人口の増加につながっていくと考えました。以上が、私たちが考えた競技普及策です。

◎滋賀県 金山理事より講評（要旨）

皆さん、大変お疲れ様でした。テーマに沿った素晴らしい活動と報告でした。

小学5年生から大学生まで、倍ほど年齢が違う人との活動で、話し合いも普段の学校とは違い、見えない苦労があったと思います。それぞれにお互いを気遣いながら活動してくれたおかげで、こうした幅の広い年齢構成でも活動できたのだらうと思います。



金山理事からの講評

また、報告してもらった内容についてですが、ホッケー・アーチェリー・フェンシングの競技体験や競技関係者の方への取材活動をとおして、「競技の魅力」や「競技普及策」についてわかりやすくまとめてもらいました。この提言に至るまでに、皆さん一人ひとりが、真剣に考え、議論している様子が発表からもひしひしと伝わってきました。さらには昨年、福井県で開催された国体の競技会場に行き、競技会場の雰囲気を感じることができたことはとても貴重な体験だったと思います。

報告の最後には、皆さん自身が情報の発信源となり、多くの人に伝えていきたいという決意も述べられていました。非常に関心しました。

5年後の国スポ・障スポの開催には、たくさんの方の協力が必要です。皆さんには、その最前線での活躍を期待しています。今回の経験を様々な場面で活かしながら、これからも活躍していただくことを願っております。

◎解団式

活動報告会が続いて、第5期生の解団式が行われました。

1 認定書の授与

解団式では、金山理事から「国スポ・障スポフレンド*」認定書が授与されました。

*国スポ・障スポフレンドとは、今後の大会準備に関連する活動への参画など、大会サポーターとして関わりを継続してもらうことを期待して認定。2024年には国スポの総合開会式に招待する予定。



認定書の授与

2 委員代表者のあいさつ 小学校6年 川嶋 裕美さん



委員代表あいさつ

ジュニア・ユースチーム第5期生を代表し、活動を終えた今の思いを述べたいと思います。この1年間『スポーツの魅力発見!!』の活動テーマのもと活動し、国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会について詳しく学ぶことができました。

特に印象に残っている活動は、ホッケー・アーチェリー・フェンシングの競技体験です。私自身、ジュニア・ユースチームに参加しようと思ったきっかけはフェンシングの体験ができ

るとあったからでした。実際体験してみると、すばやい剣さばきやきびきび動くステップがかっこよく、踏み込んで剣を打ってみると迫力があり、こんな楽しいスポーツがあったんだと驚きました。そしてもっとやりたいと思いつェンシングを始めることにしました。

また、普段なかなか接することのできない高校生や大学生のお兄さんお姉さんがチームをまとめていく姿を目の当たりにして大変勉強になりました。競技体験の後には、各競技関係者の方から「競技に対する思い」など様々なことを聴くこともでき、とても良い経験となりました。

今後も、国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会の準備活動に積極的に参加したいと思いき、その際には、今回、学んだことを周りの人たちに少しでもお返しできるようにしたいと思いき。そして、私たち5期生全員での活動は今日で終わりますが、これからもメンバーそれぞれが、スポーツの魅力を多くの人に知って、体験し、継続してもらえよう、それぞれの場所で頑張りたいと思いき。

最後になりましたが、活動でいろいろな事を教えてくださった皆さん、私たちをサポートしてくださった準備委員会のみなさん、一緒に活動してくれた第5期生のメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。

さいごに

今回、私たちは「スポーツの魅力発見!!」のテーマのもと、様々な活動を行ってきました。福井しあわせ元気国体の視察や、3つの競技体験、さらには関係者への取材活動といった普段の学校生活ではできない体験をさせていただきました。また、その体験をもとに、メンバー全員で意見を出し合い、その成果を皆さんに披露できたことに充実感を感じています。私たちがまとめた、競技の魅力や競技普及策を一人でも多くの皆様に目を通していただけるよう、私たち自身が情報の発信源となり、今後もPRしていきたいと思えます。

これまでの活動を通して、一つのことを成し遂げた達成感、人と人とのつながりの大切さなど多くのことを学ぶことができました。再びこのメンバーで集まり、5年後の国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会に向けて何か協力できればと思います。

ジュニア・ユースチーム第5期生の活動にご協力いただきました関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

<ジュニア・ユースチーム 第5期生メンバー>

No.	氏名	学	年
1	赤渕 実蘭	小	5
2	大澤 葵	小	5
3	小畑 菜央	小	5
4	片山 由葵	小	5
5	神田 仁湖	小	5
6	中川 陽斗	小	5
7	安部 真那叶	小	6
8	稲垣 徹平	小	6
9	川嶋 裕美	小	6
10	小林 斗和	小	6
11	佐藤 鈴愛	小	6
12	藤井 康生	小	6
13	丸尾 文昭	小	6
14	柳田 涼乃	小	6
15	渡邊 香凜	小	6

No.	氏名	学	年
16	饗場 千尋	中	1
17	生田 瀬那	中	1
18	尾上 康太郎	中	1
19	田中 結柊	中	1
20	三輪 紅音	中	1
21	村尾 豪之輔	中	1
22	岩田 育未	中	2
23	岡本 樹	中	2
24	三橋 藍	高	1
25	安田 力哉	高	1
26	山越 一輝	高	1
27	高木 瑞希	高	3
28	大石 歩	大	1
29	片桐 粹	大	1
30	三島 あやな	大	1
31	福井 徳文	大	3
32	澤田 葵	大	4



第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会事務局
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
滋賀県県民生活部スポーツ局
国体・全国障害者スポーツ大会準備室内
TEL 077-528-3321
FAX 077-528-4832